

令和6年生駒市教育委員会第2回定例会会議録

1 日 時 令和6年2月26日(月) 午後1時00分～午後3時10分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第2号 生駒市スポーツ推進審議会からの答申について
- (2) 議案第5号 第2期生駒市スポーツ推進計画の策定について
- (3) 議案第6号 生駒市生涯学習施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
- (4) 議案第7号 令和6年度予算編成について
- (5) 議案第8号 令和6年生駒市議会第1回(3月)定例会提出議案の意見について
- (6) 議案第9号 生駒市長の権限に属する事務の補助執行の解除について
- (7) 議案第1号 生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想の策定について
- (8) 議案第2号 令和6年度生駒市学校教育の目標について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委員	レイノルズあい
委員	中 川 義 三	委員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育こども部長	鍬 田 明 年	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	松 田 悟	教育総務課長	山 本 英 樹
教育総務課課長	松 本 芳 樹	教育指導課長	花 山 浩 一
幼保こども園課長	大 畑 勝 士	幼保こども園課指導主事	湯 川 祐 美 子
幼保こども園課指導主事	喜 多 美 枝 子	こども総務課長	武 元 一 真
子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂	生涯学習課長	清 水 紀 子
図書館長	西 野 貴 子	図書館課課長	錦 好 見
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	桐 坂 昇 司
教育指導課課長補佐	中 田 博 久	教育政策室長	日 高 興 人
幼保こども園課課長補佐	小 林 奈 津 子	生涯学習課課長補佐	井 川 啓 一 郎
図書館南分館長	谷 江 真 美 子	生駒駅前図書室長	入 井 知 子
スポーツ振興課課長補佐	大 畑 由 紀	教育総務課(書記)	佐 竹 裕 介
教育総務課(書記)	吉 川 優 香		

6 傍聴者 3名

午後1時00分 開会

○開会宣告

○日程第1 前々回及び前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における生駒市立学校の調査結果について、花山教育指導課長から説明

<参照：資料1>

(質疑)

飯島委員：全体的に全国平均か、もしくはやや上という結果が多く、非常に良好だと感じている。ただ、競技者を養成することが目的ではなく、全年齢においてスポーツを楽しむことや、健康寿命を高めることが市の目標だと思うので、その辺りをサポートしてもらうように今後ともこの結果に注視していただきたい。

吉尾委員：数値が上がっていることは、とても喜ばしい。どんどん体を動かしてもっと元気な心と体になってほしい。折れ線グラフについて、生駒市はすごく高い項目もあれば、少し低い項目もあり、星形のようなばらつきがあると思って見せてもらった。どれを特化しなければいけないということではないが、遊びや体育の授業を通して、全体が少しずつ上がっていくような総合的なバランスも大事だと思う。すでに様々な取り組みを進めていると思うが、バランスも少し意識しながら楽しく体づくりに取り組めるような工夫をお願いしたい。

中川委員：各学校での取り組み等もしっかり行ってもらっているが、学校の時間内では難しいところもある。例えば体育館の放課後利用や休日の運動場解放に取り組んでほしい。また、生涯学習部では様々な体育的な行事等も行っているが、これからも充実させてほしい。大変だと思うが、遊びもスポーツも学びもできるような生駒市であればと思うので今後ともお願いしたい。

レィルス委員：この調査は令和5年の1学期に実施しており、5月までは新型コロナウイルスによる制限があったと思うので、その割には数値として悪くないのではないかと思った。体育活動にも制限があった2年間の状況を思えば、平均的に上がっており、良い傾向だと思っている。コロナが明けて制限がなくなったが、ちょうど私の子どもたちがこのぐらいの年頃なので実感を含めて言うと、スマホ等の端末にかける時間が非常に多く、中学生になるとよりその傾向が強いと思っており、そのような現状から外に出て体を動かすことは困難だと思う。特に少し寒い時期は、本人たちの気力や興味関心がないと難しいと思うが、子どもに聞いてみると、体育の先生が上手く指導してくれて楽しいときもあるようで、やはり指導者の方もうまく声掛け

をしないといけないと思った。また先生方に限らず、この後のスポーツ推進計画にも出てくるような、色々な地域スポーツの推進者の方に学校に入ってもらうことで上手く楽しさが伝わり、体を動かして健康に努めていくというような良い流れができればと期待している。

○日程第3 報告第2号 生駒市スポーツ推進審議会からの答申について

○日程第4 議案第5号 第2期生駒市スポーツ推進計画の策定について

・生駒市スポーツ推進審議会からの答申及び第2期生駒市スポーツ推進計画の策定について、西スポーツ振興課長から説明

<参照：議案書p1～3、別冊1、資料2、資料3>

(質疑)

吉尾委員：総合教育会議の際に、飯島委員がおっしゃっていたこれから人生100年となっていく時代で、健康で自分で体を動かせることはすごく重要になってくると実感している。そのことも含めてこのスポーツ振興計画というのが、重要案件だと実感している。計画には、総合型地域スポーツクラブという言葉が多く出てくる。生駒市では「いこ増ッスル」という取組みがこれに当たるということが分かった。これは非常に良いシステムで、気軽にやりたいことをやれるシステムが充実していると思ったが、ここにもあがっていたように認知度が低くて広まっていない。もっと広めていければ、忙しい方でもアンケートを見ると、グループやチームよりも個人でやりたい方が増えているということなので、発信の仕方は難しいと思うが、そのあたりができれば喜ばれるシステムだろうと思っている。30ページ「学校とスポーツ団体の連携強化」について、「学童保育所と地域スポーツ団体が連携して、学童保育所に通う児童が気軽にスポーツにふれあえる環境を整備します。」とあるが、放課後子ども教室が全校に入るようになり放課後の子どもたちの居場所づくりも着実に進んでいるところだと思う。放課後の学校で過ごしている子どもたちにもっとスポーツをとるところで、これを掲げていただいていると思うので、今後は少し視野を広げ、放課後の子どもの居場所づくりにも、スポーツを生かすことができれば嬉しい。わかりやすい資料で、計画がうまく推進していくことを願っている。

西課長：先ほどの総合型地域スポーツクラブの「いこ増ッスル」だが非常にいろんな面で活動されており、婚活事業を全国的に取り組んでいることで珍しさから全国的に取り上げてもらっている。現在の生駒市には三つのクラブがあり、「いこ増ッスル」、「リトルパイン」、サッカー主体のクラブである「プロストリート関西」がある。現在は4つ目5つ目も動き出そうとしており、来年度できたらと思っている。身近なところで広い世代の方々が楽しくスポーツ文化活動をしてもらえるように今後も取り組んでいきたい。また、30ページの学童保育の部分について、現在「リトルパイン」がアフター

スクールとして、学童保育に関わるような活動をしていただいている。この取組を様々な学校の学童保育を対象にできればと思っており、新しくできるクラブにも期待しつつ、進めていきたいと思うのでよろしくお願いしたい。

飯島委員：11ページの中ほどの帯グラフについて、運動やスポーツを全くやっていないという方が25%、週に1日以上の方が44%台とある。22ページに週に1回以上運動される人を44.4%から50%まで高めたいという目標があり、こちらは十分に実現可能という気がするが、問題は11ページの25%の運動を全くやっていない方である。運動を全くやっていない方と、運動をときどきやっている方の間にはかなりの差があるように思う。運動をされている方の運動頻度を高めることも重要だが、全くやっていない人の割合を低くするということが、市全体の健康寿命を高めることに直接的に関わってくる気がするので、週1日以上運動・スポーツを行う人の割合と合わせて、全く運動スポーツに取り組んでいない方の割合を減らすことも同時並行でアプローチをしていただきたい。

西課長：おっしゃる通りで、全く運動されていない方に運動してもらいたいという気持ちはスポーツ振興課として持っている。ハードルの低い運動や、生駒市でも力を入れている障害者の方々へのスポーツ活動の支援も引き続き行っていきたい。この数字が少しでも減るように努力していきたい。

中川委員：総括的に取り組み、様々な部分に目を配っていただけてありがたい。吉尾委員からも話があったが、学校の放課後では、放課後子ども教室や学童で運動場を使ったり、体育館でリトルパインの方が運動をやっていたり、それぞれが色々な場所を使って運動を行っている。今後も窓口で運動がしたい方の相談に乗ってもらえればと思う。また私の町では、包括支援センターから100歳体操の提案をいただき、実施しているカフェがある。初めは参加者が2人だったが、今は10人近くの方が来ている。市内の様々なところで、運動をしたいけどできないという方がいると思うので、色々な行事を新しく組んでもらい、地域の活動に繋げていただけたらと思う。夜の4時頃からたくさんの方が歩いている様子を見かける。そういった方々は運動をしたい方だと思うので、どこかで一緒に運動できるような色々な行事をお願いしたい。

レイズ委員：午前中協議した教育大綱と比べると、推進計画全体は前回よりもコンパクトにまとめてもらい、すごく見やすくなり、カバーするところはカバーされてとても良い印象を持っている。先ほどの運動やスポーツを行わない方の話で、私は果たしてできているのかと考えていた。先ほどのハードルを低くという話は、例えば、市役所の4階に上がるときに階段を使ったことにあたるのかなと思っていて、少しだけストレッチしてみるとか、本当に低いハードルから私も始めようかという心がけはしている。SNSでも簡

単な運動を教えてくれるコンテンツが多い。ビデオリサーチ等もしていると思うが、市からもどんどん低いハードルで良いということ発信し、例えばテレビの前でやってみようとかがあればすごく伝わりやすいと思った。1つ質問だが、パブコメの備品購入の助成に関する回答として、学校教育活動が優先なので新しいコミュニティに与えることが難しい状況になっているが、計画案ではスポーツ施設の設備の充実として掲げていて、環境整備を図っていくと書いてある。結局整備するかしないのか、補足してほしい。

西 課 長：備品については、総合型地域スポーツクラブ等、公益的な目的でされる活動に関しては、少し予算を付けている。今後30ページに書いている4Tクラブとして、様々な種目を多くの人で楽しく行ってもらおうということも各中学校区・小学校区で拡げたいと思っている。こちらは総合型地域スポーツクラブが中心となって活動しており、購入したものは学校開放の団体にも利用いただけるのではないかと考えている。優先的にということにはならないが、やり方を考えながら、皆さんが少しでも楽しくスポーツしてもらえるように考えている。

吉尾 委員：14ページ公共スポーツ施設の満足度のところで「利用したことがあるかないか」への回答がある。先ほど飯島委員のスポーツを全くやっていない方をどうするのかという話と通じるが、利用したことがない方にどうアプローチするかということは大きな課題になると思う。知っているのと、知らないのでは大きな違いがあるので、そこも同様な取組になってくると思っている。その下の公共スポーツ施設に対して望むことについては、市民の皆さんが本当に良いところを突いていると感じている。例えばバリアフリーやユニバーサルデザインで誰もが使いやすいことや、先ほど中川委員が言われたように、カフェコーナーとかアフタースポーツのための施設というところの声が上がっていることに着目してもらい、すぐにはできないと思うが、計画の中に入れていただけたらもっと興味を持って、市民の皆さんも取り組んでいくことができると思っている。また、観戦や応援も一つのスポーツではないかと思うので、体が不自由な方でも応援すると気持ちが前向きになったり、自分の声が届くことも非常に意義のあることであるので、その辺りもスポーツとして、少し考えに入れてほしい。

飯島 委員：学校部活動の地域移行に関して、35ページ「部活動地域移行について」という項目で認知度が3分の1程度で、まだ十分認知されていないという状態だ。以前、生駒市の部活動の地域移行については、担当してもらえの方が足りない状態だと聞いている。今すぐということではないが、大人たちのスポーツへの関心や関与の仕方を高めていくために、子どもたちが地域の中でスポーツに取り組んでいる姿を見ることが、一緒に取り組む機会を設けてもらえるように、今後長期の取り組みとして見据えてほしい。

西 課 長：2月に知事から、部活動の地域移行について発表があった。まだ疑問点は多くあるが、今まで生駒市として非常にモヤモヤしていた部分が少し解消された。今後も国や県の動向を見ながら、生駒市独自の取り組みとして進めていけたらと思っているので、協力願いたい。

審議結果 報告第2号【報告のとおり承認】
議案第5号【原案のとおり可決】

○日程第5 議案第6号 生駒市生涯学習施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

・生駒市生涯学習施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、西スポーツ振興課長から説明

<参照：議案書p4、資料4>
(質疑)なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第6 議案第7号 令和6年度予算編成について

・令和6年度予算編成について、鍬田教育こども部長、八重生涯学習部長から説明
<参照：議案書p5、別冊2、資料5、資料6>
(質疑)

中川委員：スクールアドバイザーやスクールソーシャルワーカーについては、先生方が子どもに対応する中で非常に大切なことである。今後も手厚くお願いしたい。また高学年の教科担任制や化学プログラミング等の新しい教育についても配慮してもらっており、ますます取り組んでもらえればありがたい。

レイルズ委員：資料6、38ページの本年度と前年度の比較について、財源の内訳が書いているが、これは教育委員会に関わる予算の全体図という理解でよいか。

鍬田部長：款8教育費、項6保健体育費の総計になる。

レイルズ委員：前年度の予算と比べて増えている部分が多く、しっかりと予算を取ってもらい、考えてもらっていると感じた。人口減の中で、教育費を増やしていくことが、良いように思わない方も一部おられるかもしれないが、やはり教育委員会としてはしっかりと教育力を上げていきたいので、毎年それぞれの案件で教育委員会活動に関しての予算をしっかりと取ってもらっていると思う。実感として全体的に恐らく2割ぐらいは前年度からもらっているという印象だ。これは予算案で正式承認ではないが、今後もしっかり予算を取っていただいて、様々な教育活動に頑張っていけるようお願いしたい。

- 吉尾委員：高学年教科担任制推進事業の部分で、全小学校でそういう授業を行っていくという認識でよいか。それともそのための人が雇用されるということか。
- 花山課長：高学年の専科担任制は、全小学校の高学年に専科をできる先生を配置するための予算を取っている。どの教科にあてるかは学校での判断になる。
- 原井教育長：先生方の専門性を活用していくということ、先生方の働き方改革、それから多くの目で子どもたちを指導するという意味合いになっている。
- 吉尾委員：プロポーザル審査委員会とは、どのような委員会なのか。
- 鍬田部長：プロポーザル審査委員会は、生駒市が事業者等と契約する際に、通常は価格で決めるが、値段だけでなく品質も同時に見る契約の手法である。複数の委員にそれぞれ持ち点があり、一番評価が高い事業者と契約をするものである。
- 飯島委員：小学校・中学校共に資料5の4ページ中ほどに、情報教育推進事業として事業支援ソフトの活用とある。これは児童生徒全てが扱うアプリケーションを導入するということか。
- 花山課長：授業支援ソフトは、全ての小中学校の児童生徒が使うものになっており、生駒市ではロイロノートを採用している。
- 飯島委員：資料5の7ページ（7）図書館運営に「・図書館本館リニューアル事業」という設計のための予算があるが、ここ10年で本との関わり方がかなり変わってきており、これまで難しかった電子図書の導入も進めているようだが、新しくリニューアルする際の設計として、電子図書と通常の図書のバランスにおいて、今の図書館とは違う構想があるか。
- 西野館長：デジタル環境については、かなり変わってきている。このリニューアル計画は、最低20年くらいを見据えている。日々新しくなっていく技術の中でどのように対応していくかを考えなければならない。また昨今、本の電子化が進み、公共図書館で貸せる電子図書館も増えてきている。また図書館で貸し出せる雑誌も増えてきているので、インターネット環境を整え、館内での閲覧や貸出を視野に入れている。工事は2年後を予定しているが、その中でさらに技術は変わっているかと思うので、常にアップデートしながら計画を練っていきたい。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第7 議案第8号 令和6年生駒市議会第1回（3月）定例会提出議案の意見について

- ・令和6年生駒市議会第1回（3月）定例会提出議案の意見について、鍬田教育こども部長、八重生涯学習部長から説明

<参照：議案書p6～14、資料7、資料8>

（質疑）

イルズ 委員：資料7について、保育園等の申し込みが書面のみの対応から、ホームページ等でできるようになるという理解でよいか。

大畑 課長：現在、入園時に重要事項「説明書」を「各園から」配付され説明を受けて入園している。これまでは園の見やすい場所に掲示しなければいけないという義務があったが、広域的に重要事項「説明書」を見たいというニーズがあったので、インターネット上でも公表する義務が新たに加わったということだ。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第8 議案第9号 生駒市長の権限に属する事務の補助執行の解除について

・生駒市長の権限に属する事務の補助執行の解除について、山本教育総務課長から説明
<参照：議案書p15～16>

(質疑)

イルズ 委員：これは記載されている事務が、市長の手から離れて別の部署がするということか。

山本 課長：これまでは、本来市長が行う事務を補助執行により教育委員会で行っていた。今回は、市長部局にこの組織が戻るなので、市長が執行することになり、補助執行を解除するという形になる。

原井教育長：教育委員会の仕事から解除され、市長部局に入ることだ。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第8 議案第9号 生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想の策定について

・生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想の策定について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p17>

(質疑)

原井教育長：この件に関しては、午前中の総合教育会議の議題としても取り上げ、内容は市長にも理解してもらったところだ。その中で出た意見として、この最後の23ページの5項目の中に、3回の会議での地域や保護者、学校関係の方の総意で作り上げてきたというプロセスが大事であるということをお話した。この視点に沿って、これからいよいよ学校づくりが始まる。このプロセスや内容については、これからしっかりと地域や保護者、当事者の子どもたちや先生方にもしっかりと伝えながら、来年度よりいよいよ具体的な準備計画に入っていくことになる。そこに向けて、また新たな取組を

初めていくということで、確認をしたところだ。何かこの内容や進め方について改めて意見等はあるか。

レナルズ委員：1ページの「はじめに」の部分で、『第2次生駒市教育大綱の基本方針のひとつである「21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり」を進めて…』とあり、この段落の部分がこの第2次生駒市教育大綱の内容に基づいているものだと気がついた。第3次の生駒市教育大綱の方向性がある程度決まりつつある中で、第3次教育大綱の内容を少し盛り込んだ方が良いのではないかと思ったがどうか。

鎌田部長：内容も踏まえ検討し、後日報告させていただきたい。

原井教育長：第3次生駒市教育大綱はまだ策定しておらず、正式には決定していないという点や、「21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり」というところは、学校教育の目標の中でも、書かれているところでもあるので、大きく変わることはないのではないかと私達は認識をしている。その上で少し表現を加味していくという部分は、教育長預かりで了解いただいて良いか。

(異議なし)

飯島委員：非常に丁寧にまとめてもらったという印象を持った。歴史から書き始めて、現状の課題、それから今後というように非常に丁寧に書いてある。せっかく内容に、「伝統を共有する」や「伝統を継承する」、「地域と協力してこれからの学びをつくっていく」等の伝統や歴史についての記載があるので、もし可能であればサブタイトルに「伝統を継承し、地域とともにこれからの学びを実現する学校づくり」と出来れば思うが検討いただけるか。

吉尾委員：150年の歴史の中で大切にしてきたことと、これからどうなっていくかということの両方が大事だと思う。子どもたちの育ちや教育にとって何が大事なのか再確認し、新しい一歩を踏み出すというイメージを私も持っている。飯島委員が言われたようなサブタイトルなら、じっくりくる。

原井教育長：飯島委員の案は、「伝統を継承し、地域とともにこれからの学びを実現する学校づくり」でよいか。

飯島委員：「地域とともに」を入れるか悩んでいる。入れるとサブタイトルが長くなり過ぎるのではないかという思いもある。

吉尾委員：「これからの学び」の中には、「地域とともに」ということも含まれるのではないか。これからの学びには、地域、保護者、学校、子どもたちが、一つになるということが具体的に挙がってくるなら、「地域とともに」はなくても良いと思う。

原井教育長：最後の23ページの5つの視点が学校づくりの中心だと思っている。その中には当然「地域や他学年と交流し」という内容や「地域の人が気軽に利用できる」という言葉が入っているので、そのあたりが含まれてくるかな

と思う。それでは「～伝統を継承し、これからの学びを実現する学校づくり～」と変更するというところでよいか。

(異議なし)

吉尾委員：基本構想は(案)になっているが、まだこれは公表されていない状態ということでよいか。(案)が取れてホームページ等で公表されるという認識で間違いないか。

原井教育長：そのとおりである。本日、この会議で決定して(案)を取ることになる。今週3月2日に、「南小中学校の未来を考える会」でプロセスや教育委員会の考える学校づくりについて話をさせてもらう予定だ。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第10 議案第2号 令和6年度生駒市学校教育の目標について

・令和6年度生駒市学校教育の目標について、花山教育指導課長から説明

<参照：議案書p18>

(質疑)

飯島委員：生駒市学校教育の目標の図の真ん中にある〈めざす子ども像〉においては、下の3つ丸がめざす子ども像であることが分かるが、重点目標においては、どれが重点目標であるかが少し分かりづらい気がする。重点目標である下の3つを四角で囲む等で工夫してほしい。

原井教育長：確かに矢印の中に言葉が入ってしまっているので、どこまでが重点目標かが分かりづらい。少しレイアウトを変えたい。この修正内容については、教育長で預かって良いか。

(異議なし)

原井教育長：学校教育の目標は、各学校の経営方針に関わり、これに基づいて各校長が次年度の計画を作成していく。可能であれば本日中に目標を決定し、次の3月校長会で内容を共有したいと考えている。細かい修正については、教育長預かりで対応して良いか。修正が完了した段階で教育委員の皆さんへ報告させていただきたい。

(異議なし)

吉尾委員：重点目標の3つ目「多様な他者となつながら挑戦を続けるたくましい心身の育成」について、教育大綱を重視して入れてもらっているのはよく分かるが、「挑戦」とは子ども自身が自ら行うものであると思う。「他者となつながら」という記載があると、少し「挑戦」の意味が狭まってしまうのではないかと懸念している。ここでの他者と繋がるという意味は、恐らく地域の方や保護者、友達等の子どもたちの周りを取り巻く様々な環境と繋がるということだと思う。真ん中の重点目標に「多様性を認識し、承認し」とあるが、これからの子どもたちには学ぶ力も大切だが、自分をつくり、自分を出し

ていくという非日常力も大切になると思う。諦めないことやどうにかなること、挑戦し続けることが最も非日常力に繋がると思う。多様な他者のつながりというのは、具体的な内容である。周りの人に助けてもらわないと挑戦も出来ないだろうが、まずは自分で一步踏み出し、アクティブに行動して、その後に周りから助けをもらうということが、私の認識だ。ここに多様な他者のつながりを入れた理由を教えてください。

花山課長：教育大綱の基本方針の、「学びを通して繋がり合える地域・・・」を踏まえて、教師、友達、地域、さらには外国と繋がることも含めてそういった繋がりを大事にしていきたいという思いで入れた。

イノズ委員：私もこの件に関しては吉尾委員と同意見である。重点目標の真ん中に「多様性を認識し、尊重し、行動できる態度の養成」とあるので、「多様な他者とのつながり」もこの真ん中の目標に寄せた方が良いのではないかと思います。重点目標として大きく三つ掲げる内で、その二つが同じ言葉で始まっているのももう少し幅広くできないのかと思っていた。右の目標は「挑戦を続けるたくましい心身の育成」と修正前のままにし、「多様な他者とのつながり」という言葉が必要であれば、真ん中の目標に組み込む方が良いと思う。私としては、真ん中の目標の中に今説明していただいた繋がりについても含まれていると感じたがどうか。

原井教育長：右の重点目標について、「多様な他者とのつながり」を取って「挑戦を続けるたくましい心身の育成」と元に戻して良いか。また、「多様な他者とのつながり」については、真ん中の重点目標の「自らを承認し、他者を承認する感性」という内容に含まれているのではないかという意見だがどうか。

中川委員：右側は元に戻して、真ん中のところに説明を加える方が簡単で分かりやすいと思う。

飯島委員：私も「多様」が二つ並んでしまうので、戻した方がよいと思う。

原井教育長：では、重点目標の右側は「挑戦を続けるたくましい心身の育成」とし、その上の〈めざす子ども像〉についても、「挑戦を続ける子ども」と修正してよろしいか。

(異議なし)

イノズ委員：今回の変更内容について、正しく理解したい。一番左の重点目標「将来を見据えた主体的で楽しい学びの推進」について、「将来を見据えた」を付けた理由を聞きたい。確かに将来を見据えた方がよいとは思いますが、一方で、まだそこまで考えなくても、今楽しみながら正しく主体的に学ぶことが大事だと思う。将来を考えないといけないという意見も分かるが、重点目標として言葉を入れた背景を理解したい。

花山課長：長い人生を進んでいく力の育成と捉えるならば、「将来を見据えた」を入れたらどうかと吉尾委員から意見をいただいた。

吉尾委員：重点目標は、子どもを育てる側の視点に立つものだと私は認識している。
「将来、何になる必要があるからこう育てる」ということではなく、変化していく時代の中で子どもたちが育っていくということを、周りの大人も認識しておく必要があると思います提案した。

原井教育長：事務局として、〈めざす子ども像〉と《重点目標》は対比しており、今吉尾委員が言われたように〈めざす子ども像〉は子どもの姿、《重点目標》はそれに向けて関わる大人の目標である。「21世紀を自分らしく生きる」というめざす子ども像に対比して、「将来を見据えた主体的で楽しい学びの推進」としているがどうか。

イノブ委員：内容がシンプルであればあるほど伝わりやすいと私は考えている。もちろん「将来を見据えて」という意味が含まれているとは思いますが、1番伝えたいことや1番目標としたいことを分かりやすく伝えようとするのであれば、簡潔に言ってしまっても良いと思う。私は元々の案である「主体的で楽しい学びの推進」とする方が良いと感じたがどうか。

飯島委員：どちらも良いと思うが、他の二つが「多様性を認識し、尊重し行動できる態度の育成」「挑戦を続けるたくましい心身の育成」となっており、少し重層的な目標である。「主体的で楽しい学びの推進」となると、日本中どの学校でも同じ目標になってしまう気がする。「将来を見据えた」を重ねることで特色を出すということで良いのではないかと感じた。

中川委員：他の目標も長い文章であるので、「将来を見据えた」を加えても違和感はないと思う。

原井教育長：右側の重点目標の1つ目の項目に「人生や社会の中で、生きて働く」という内容が含まれているので、「将来を見据えた」は、修正後のままでよいか。

(異議なし)

中川委員：「小学校と中学校の具体的な取組」①について、前回の「課題解決型学習などを通じ」という内容を、子どもたちが主体になって動くような形の表現にしてください良かった。教育大綱も同じように変えてもらったので、2つが上手く合って、いい方向に変えてもらえたと思う。

審議結果 【原案のとおり可決】

・令和6年度第2次生駒市教育大綱アクションプランの策定について

(質疑) なし

・令和6年度生駒市社会教育基本方針及び重点目標について

(質疑) なし

・令和6年3月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明

(質疑) なし

○閉会宣告

午後3時10分 閉会